

I. 南京大学への教員派遣事業

1. 派遣教員、奈良女子大学研修生

派遣教員	磯部 敦	研究院人文科学系言語文化学領域 准教授
研修生	田村美由紀	大学院人間文化研究科博士前期課程言語文化学専攻 1 回生

2. 派遣期間

- 10月29日(火) 関空発ー南京着 夕刻、南京大学キャンパス内食堂にて歓迎会
- 10月30日(水) 南京大学仙林キャンパスにて集中講義
- 10月31日(木) 同上
- 11月1日(金) 同上
- 11月2日(土) 夫子廟、大虐殺記念館等見学
- 11月3日(日) 南京発ー関空着(青島経由)

3. 事業概要

3・1 シラバス

【テーマ】テキスト分析論

① 教育目標

作家・作品論とテキスト論の違いを確認したのち、物語構造分析の実践をとおしてテキスト分析のための方法論を身につける。昨今のライトノベルや漫画、映像テキストなどもふまえ、日本文化における近代と現代の差異についても考察する。

② 受講者に対する要求

授業は日本語で行いますので日本語力が必要です。日本文学や日本文化に対する興味関心を忘れずに。

③ 授業計画

A) テキストの枠組み

- 作者と「作者」、読者と「読者」
- 作者の死、機能としての「作者」、権威としての作者

B) テキストの内側 物語論

- 話す／語る、語る／騙る、ストーリー／プロット
- 型と意味、異郷訪問、遍歴と成長

C) テキストの外側 書物論

- タイトル：題名とはなにか

- ノンブル：テキストの厚みを支える数字

④ 授業形式

パワーポイントや映像等も交えながら講義形式で行います。

⑤ 教材と参考書

教師作成の講義資料を配布。映像テキストは『千と千尋の神隠し』（宮崎駿監督）を使用。参考図書等については授業中に紹介します。

⑥ 成績評価方法

授業の内容に関するレポートを提出。今回は以下のとおり課題を出した。

- 作品を一つ取りあげ、C・Vogler の *The Writer's Journey* における主人公の 12 ステージをふまえて作品構造を抽出・分析せよ。

3・2 講義概要

第 1 日目（10 月 30 日） テキストの枠組み

- ① パワーポイントを使用しながら、奈良女子大学の概要、交換留学制度等について説明。その後、田村（研修生）が奈良と本学の魅力について自身の経験をもとに説明した。
- ② 「作者」はなぜ／いかにして前景化してくるのか。日本文学における「作者」の史的展開をふまえながら、作家作品論や学校教育における設問について言及。著作権の歴史にも触れながら、「作者」が実態ではなく概念であることを説明した。
- ③ R・バルト「作者の死」をとおして起源としての作者を括弧にくくることを、M・フーコー「機能としての作者」をとおしてテキストを枠組む「作者」概念を、また、U・エーコの「モデル作者」「モデル読者」をとおして読書モデルについて説明した。

第 2 日目（10 月 31 日） テキストの内側（物語論）

- ① 物語はいかにして語られているのか。谷崎潤一郎『卍（まんじ）』を例に、大学院生の研究交流も兼ねて、同行の田村美由紀に自身の研究テーマについて話してもらった。物語論の方法と意義をとおして、テキスト分析の実践を示してもらった。
- ② 物語はいかにして構造化されているのか。『はじめてのおつかい』をとおして往復構造と成長物語の関係について説明。その後、中国でも人気の映画である『千と千尋の神隠し』を鑑賞。C・Vogler の *The Writer's Journey* をふまえながら同作における「行って帰ってくる」という往復構造を抽出し、成長物語のありようを分析した。
- ③ 『竹取物語』や『ピーターパン』『ハリー・ポッター』など往復構造の物語を挙げてもらった。その中から、川端康成『伊豆の踊子』、小野不由美「十二国記」シリーズなどにおける往復構造について説明。J・キャンベル『千の顔をもつ英雄』をとおして、往復構造の物語が世界中で見られる理由について考えた。

第3日目（11月1日） テクストの外側（書物論）

- ① 内田百閒『冥途』、とりわけ同書収録の「件」（くだん）を例に物語構造を分析。まずは語りの「いま・ここ」が不定であることを確認した。
- ② 『冥途』にノンブルが付されていないことは、どのような読みをもたらすのか。このことを考えるために、まず書物におけるノンブルの機能について説明。ノンブルが厚みを可視化するものであること、読書における「いま・ここ」を指示する機能を有することなどを説明したうえで、『冥途』においては不定であること、したがってマージンや行間などの空白空間が不在から在へと意味転換していることを説明した。
- ③ 『冥途』はいかにして「冥途」らしさを装っているか。『冥途』初版本の濃深緑色クロス装と狐の型押し（箔無）という装丁と再版本の青色表紙に蓮を描いた装丁を比較し、「冥途」らしさが初版本に可視化されていることに言及し、タイトルと装丁の相関関係について説明した。